

献呈の辞

このたび、秋山和宏教授が、ご壮健のうちにくめでたく古希を迎えられます。

そこで、秋山先生の古希をお祝い申し上げ、長年にわたり先生のご指導を仰ぎ、またその学問的・人格的影響を受けました同学の士、研究者、同僚、さらに弟子たちが集いまして編集いたしました記念論文集『政治の過程・権力・構造をめぐる諸問題』を、ここに謹んで献呈させていただきます。

秋山和宏先生は、一九六八年三月に慶應義塾大学法学部政治学科をご卒業され、同年四月に同大学大学院修士課程にご進学し政治学を修められ、七一年三月に同課程を修了されました。その後、七四年一月に日本大学法学部助手となられ、故中山政夫先生（法学部教授、後に法学部長）のご指導のもと、また本田弘先生（法学部名誉教授）からの学問的感化をも受けられながら学問的研鑽を積まれたのち、八一年四月に法学部講師（専任扱い）、八四年四月に法学部専任講師となられ、大学教員としての歩みを開始されます。そして、八六年一二月に助教授、九五年四月に教授に昇格され、現在に至るまで、法学部における政治学の教育、研究に中心的な役割を果たされてきました。また、七八年四月から二〇一一年三月まで芸術学部で政治学担当の兼任講師を務められたのをはじめとして、文理学部・国際関係学部・通信教育部でも講師を務められ、他学部における政治学教育にも多大な貢献をなされました。

この間、法学部政治経済学科を中心として、数多くの学部学生の指導に当たられ、有為な人材を社会に送り出され

てられました。もちろん、大学院法学研究科においても、数多くの院生の指導に当たられており、その教え子たちは、それぞれ社会の一線で活躍しております。

学内においては、一九九八年に企画委員会副委員長、九九年に学生生活委員会副委員長、二〇〇二年・〇三年に学務委員会副委員長、同じく〇三年に教職委員会委員長、そして〇六年から一二年まで政経研究所長を歴任されるなど、要職に就かれております。

学会活動に関しましても、日本政治学会の企画委員となられたり、日本選挙学会で研究報告されたりと、研究活動の幅を広げられました。

とくに、前記の政経研究所長のご在中には、「日本大学法学部政経塾」を開催されて、法学部OBを中心とした現役の政治家を招聘され、政治家を志す学生に大きなインセンティブを与えられました。また、二〇一二年には研究所企画の総決算として、かつて衆議院議長を務め、元自民党総裁であった河野洋平氏の講演を含む「今、政治家を問う」と題するシンポジウムの開催を主導されて、大きな成功を収められています。

ご自身の研究に关しましては、先生は政治学研究者として一貫して政治権力の実態解明をテーマとされ、アメリカにおける、いわゆる「CPS論争」に影響され、この問題を日本の具体的な権力構造研究、権力過程研究に応用されてこられました。さらに、研究関心の領域は、地方レベルにおける選挙、政治権力者としての政治家、自治体の首長研究にまで及んでおります。

先生は、その穏やかで温厚なご性格によって、同僚はいうに及ばず、学生からも常に慕われ、尊敬を集めておられます。先生が示された学問への情熱や真摯な姿勢は、われわれ後進にとっても模範であり、常にそれに立ち返るべき

原点ともなっております。先生が今後とも、ますますご清祥で、われわれを温かく導いて下さいますことを願っております。

この論文集では、主として政治学をめぐるきわめて多様な論稿が掲載されており、これらの優れた論稿によって、現代社会のさまざまな課題や新たな知見が明るみに出され、学界に対する一定の寄与がなされることを確信しております。最後に、ご執筆いただきました学内外の諸先生方、また論文集刊行に御助力いただきました職員の方々に厚く御礼申し上げます。

平成二六年三月吉日

日本大学法学部長 杉本 稔